

優秀賞

一般社団法人 できわかクリエイターズ【大阪府】 重度障がい児者の「できる」、「わかる」、をICTで可能にする

選考理由

重度障がい児のコミュニケーション力とアビリティを上げることで子どもたちの感情を豊かにし、意欲を喚起しています。家族の意識にも変化を与え、社会とのつながりや絆を強めている点でも、未来志向の取り組みといえます。

活動の概要と目的

最新ICT機器で子どもたちの可能を上げ 家族の意識にも変化を与える

重度の障がいを持つ子どもたち、とりわけ重度の身体障がいと重度の知的障がいを併せ持つ重症心身障がいの子どもたちは、家族や介護関係者などの支援者からも「何もできない」「何も分かっていない」と力を過小評価されることが多いのが現状です。

しかし、近年の技術進歩によって、視線を使って機器を操作する視線入力装置、個々のわずかな動きを感知する入力機器など、重度障がいがあっても「できる」ICT機器が開発され、その環境は大きく変わりつつあります。ただ、そうした機器があることを知らない、知っていても導入の仕方がわからない支援者が大半です。

そこで2019年、自らも重症心身障がい児を育てる藤井智代氏と、作業療法士の引地晶久氏が当法人を立ち上げ、「重度障がい児（HCK）のための最新デジタルツールの講習会&体験会」をスタート。オンラインも活用し、専門家の協力も得ながら普及に努めているほか、一人ひとりの状態に合わせた個別相談も行っています。



子どもたちの変化・成長

ICT機器の活用によって子どもたちが「できる」ことが拡がり、できると「わかる」ことで支援者の関わり方も変化します。そのことが子どもたちの力や自己肯定感を育み、「もっとやりたい」という意欲を引き出しています。

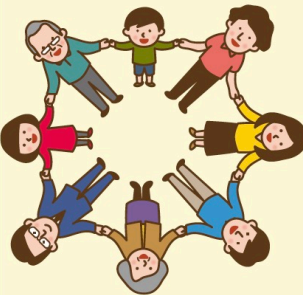


第2回重度障害児（HCK）のための最新デジタルツール講習会&体験会。当事者と家族、医療関係者、介護関係者、教育関係者、メディア関係者など多数参加しました。



共同代表の作業療法士・引地晶久氏がサポートする視線入力体験ブースで、視線入りに初めて挑戦し、笑顔を見せる女の子。

参加者の声



子どもはちゃんとわかっていて、小さい反応でいろいろ家族に伝えてくれていた。それが今、機器を使うことで初めて形になりました。（当事者家族）

オンラインで90人以上の方とつながれたことが初めての経験でした。これだけの人たちがいるなら、私もやってみたくと思いました。（当事者家族）

いつも移動や宿泊のことを考えないといけませんが、自宅から参加できたことがとてもうれしかったです。世界が広がった気がします。（当事者家族）

伊藤先生の「今できないからといって諦めない、常に希望を持つ」との言葉が、今後がんばってみようという心の支えになりました。（当事者家族）

誰も取り残さず、全員で一人ひとりの子どもたちのことを考える雰囲気が素晴らしい。自分も勉強し、広められるように尽力したいです。（医療関係者）

テクノロジーの進化は目覚ましく、重度障害のある子どもも社会参加の可能性が確実に広がっていることを知ることができました。（メディア）

今後の課題と未来の方向性

講習会と並行して、個々に合わせた機器の選定、フィッティングをサポートする訪問事業に力を入れます。また、大学や養成校と連携して授業にICT機器を取り入れてもらい、取り組みを学会で発表して普及に努めるほか、専門家と共同で重度障がい児者が活用しやすい機器やソフトも開発していく予定です。一人でも多くの重度障がい児者にICT機器の可能性を伝え、障がい者の社会参加や教育の機会を増やしていきたいと思っています。

活動の特長

▶ ICTで拡がる子どもたちの可能性と未来

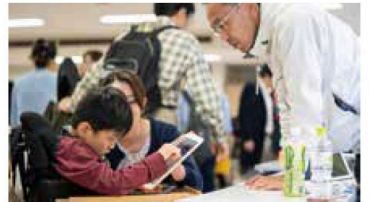
活動では、重度障がい児が自分の意志を外に伝えるための手段として、アイトラッカー、ボタンスイッチ、iPadなどのICT機器の使い方をレクチャー。その人にどの機器が適しているか、どのように訓練していけばいいか、一緒に考えていきます。その結果、家族から、「子どもとコミュニケーションがとれた」「できることが増えた」という喜びと感謝の声がたくさん寄せられています。

▶ 大学や企業から先駆者を講師に招いて講義

講習会は、視線入力研究の第一人者である島根大学総合理工学研究科の伊藤史人氏、現役の教諭でさまざまな障がい児支援の経験を持つ福岡市立今津特別支援学校の福島勇氏、視線入力ソフトの開発・販売を行っている株式会社ユニコーンの中島勝幸氏など、各分野の第一線で活躍する専門家の協力を得て行っています。この協力体制によって、さまざまなニーズの講習会の開催、個別相談時には多方面からのアプローチも可能になっています。

▶ 国内外から多数参加するオンライン講習会

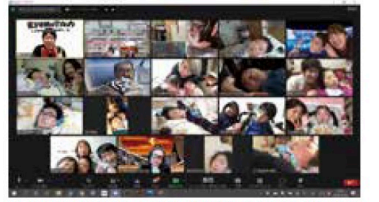
2020年はコロナ禍によってオンライン講習会となったことで、これまで会場に行きたくても行けなかった重度障がい児やその家族が、家で医療処置をしながらでも参加できるようになりました。また、以前は関西圏からの参加が主でしたが、一気に全国へと拡大。海外居住の人も含め延べ500名が参加し、大きな反響がありました。



重度障害児でも使えるiPadのアプリや活用法を学ぶ親子。スタッフが一人ひとりの状態に合った機器を提案します。



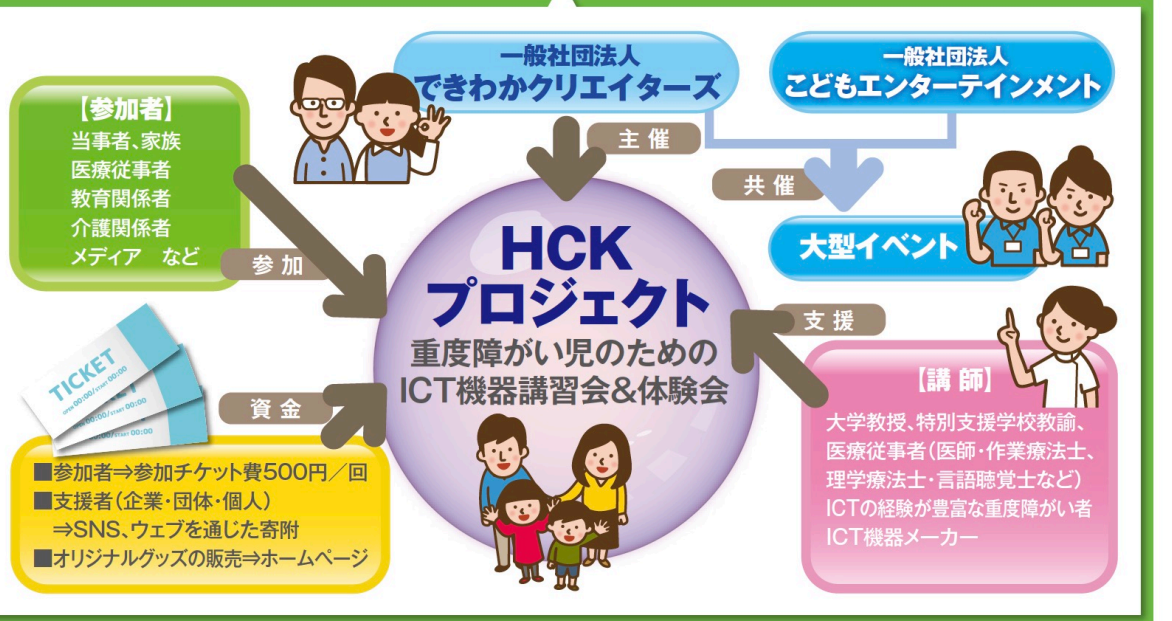
2020年6月、第3回プロジェクトオンラインで島根大学・伊藤史人助教が講演。約150名が参加しました。



島根大学の伊藤史人助教が開発した視線入力アプリ EyeMoT りえを使って、オンラインでりえ大会を開催。

活動の広がり

当初は「重度障がいの子に機械は使えない」という固定観念を持つ支援者が多かったものの、回を重ねるごとに意識が変わってきました。最初はできなくても、できるようになった子どもの支援者が、経過の動画をFacebookに上げるなどして広げてくれるためです。講習会の参加者は当事者、家族、医療従事者、教育関係者、介護関係者など、多分野の人に及びます。参加チケットは500円。大きな体験イベントを開催する際には、一般社団法人子どもエンターテインメントと共催で行っています。



所在地：〒567-0006 大阪府茨木市耳原1丁目17-33-5 ●TEL：070-2196-8851
 連絡先 ●E-mail: dekiwakac@gmail.com ●ホームページ: https://dekiwaka.com
 ●代表者/担当者: 藤井 智代 (代表理事)

こころを育む 総合フォーラム より

「こころを育む総合フォーラム」は、日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、2007年に未来を担う子どもたちのためにできることを提言にまとめ、発表しました。提言では、家庭・学校・地域・企業の4つの分野に、それぞれの立場で子どもたちのこころを育むことを「問い」のメッセージとして、呼びかけました。

2008年、この提言内容を全国にムーブメントとして広げていくために、子どもたちの“こころを育む活動”を応援する、全国運動を始めました。毎年、全国各地で取り組まれているこころを育む優れた活動を募集・表彰し、広く紹介しています。

2019年、鷲田清一を座長に、新たな体制で第二期をスタートしました。自薦に加え、推薦での応募もできるようにすることで、より多くの活動に光があたるようになりました。

本書が、“こころを育む”環境づくりのための取り組みのヒントになり、活動の輪がさらに広まるきっかけとなれば幸いです。

活動の経緯

- 2005年 「こころを育む総合フォーラム」発足
学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 2007年 議論をまとめた「提言書」をプレス発表
発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 2008年 「全国運動」スタート
全国キャラバン、子どもたちの“こころを育む”活動の募集・表彰を開始
- 2011年 東日本大震災支援活動（トヨタ財団との共同プロジェクト）実施
「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を実施（～2013年）
- 2013年 「有識者対談」WEB連載（東洋経済オンラインとの共同企画）
山折座長を中心に有識者メンバーと「日本人としての教養～次世代に継承したいこと」をテーマに対談（～2015年）
- 2015年 フォーラム活動10年
東京にてフォーラム活動10年特別シンポジウムを開催
- 2017年 全国運動10年
10周年記念表彰式
- 2019年 「第二期 こころを育む総合フォーラム」をスタート
鷲田座長を中心に新たなメンバー11名でスタート

提言書

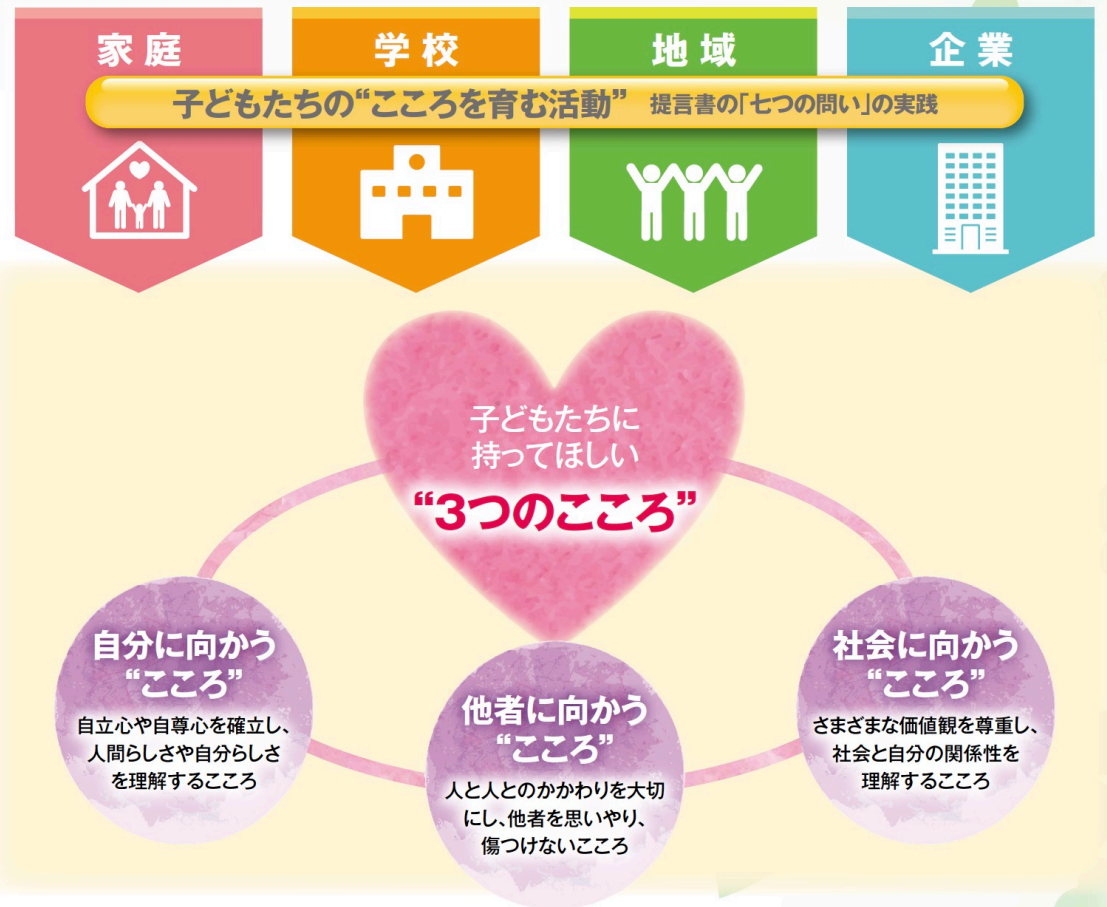
2007年、フォーラムの思いを提言書にまとめて公表しました。家庭・学校・地域・企業の4つの分野で、子どもたちのこころの育みのために大人たちができることを、自己の内心に向かって問いかける「七つの問い」の形で呼びかけています。具体的には、家庭に向けて「親（保護者）の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか」、学校に向けては「教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか」など、4分野それぞれに対して「七つの問い」を提案しています。

提言書の詳細は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページをご覧ください。
<http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php>



フォーラムの目指す姿

家庭・学校・地域・企業などで取り組まれている「子どもたちの“こころを育む活動”」を通して、子供たちに持ってほしい“3つのこころ”をバランスよく育むことを目指しています。



こころを育む総合フォーラム メンバー



座長 鷲田 清一 大阪大学 名誉教授
市川 伸一 東京大学 名誉教授
今村 久美 NPO法人 カタリバ 代表理事
入江 杏 絵本作家「ミユカの森」主宰、上智大学グリーンケア研究所 非常勤講師
小国 綾子 毎日新聞 ジャーナリスト
工藤 啓 NPO法人育て上げネットワーク 理事長



玄田 有史 東京大学 社会科学研究所 教授
鈴木 みゆき 国立青少年教育振興機構 理事長
福田 里香 パナソニック株式会社 CSR・社会文化部 部長
増田 明美 スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学 教授
山極 寿一 京都大学前総長、日本モンキーセンター 博物館長